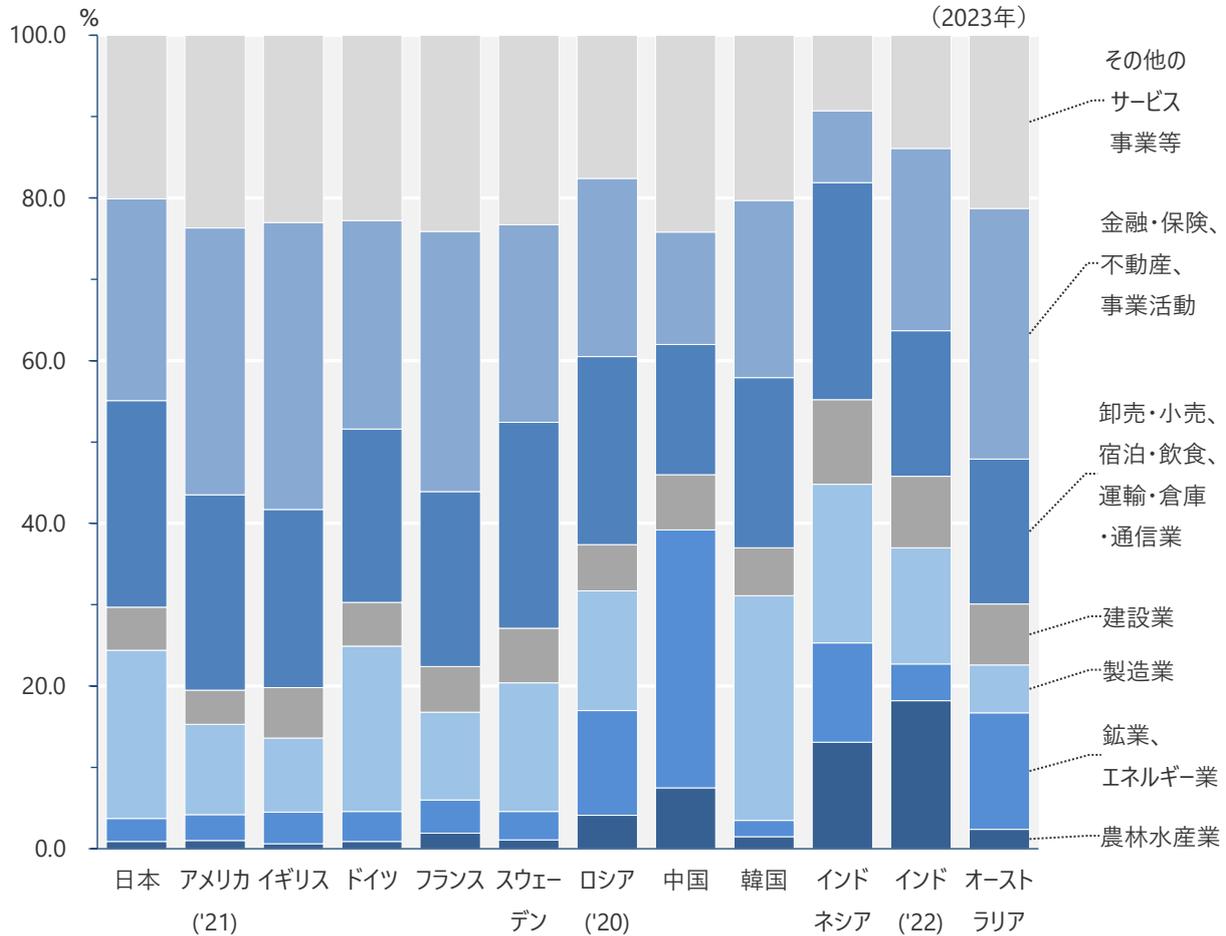


1-2 経済活動別国内総生産（構成比）



関連表 p.29 「第 1-6-2 表 経済活動別国内総生産（構成比）」

グラフは、国内総生産における経済活動の構成比をみたものである。この構成比によって、各国における産業構成比が把握できる。

産業構造の変化を長期的にみると、所得の上昇によって、第1次産業から第2次産業、さらに第3次産業へと変化することが知られている（ペティー・クラークの法則）。実際、主要先進国の産業構成は、第3次産業の割合が高くなっている。そうしたなかで、主要先進国のうちでも日本やドイツ、韓国などは、相対的に製造業の割合が高いという特徴がある。他方、インドネシアやインドなどでは、他の国と比べて農林水産業の割合が高くなっている。また、中国、ロシア、オーストラリアでは、鉱業、エネルギー業の割合が高くなっている。